

トピックス 中長期的な企業価値向上に向けた取り組みをご紹介します

Topics 1

送信機の新機種 新発売

送信機は、心電図、呼吸、SpO₂などのバイタルサインを、セントラルモニタ等に連続的に無線送信する医療機器です。昨年11月に発売した本製品は、従来品よりも小型・軽量化、バッテリー寿命の向上を実現するとともに、患者さんの装着負担の軽減、電池交換の手間・コスト削減に配慮しています。新たに電子ペーパー式チャンネルラベル等の技術を搭載したほか、高解像度の液晶画面で視認性・操作性が向上しています。

生体情報モニタリング事業



送信機 ZS-730P/720P

オンサイトアラーム分析ソフトウェア、入退院業務支援ソフトウェア 新発売

ソリューション事業では、医療機器から取得したデータを活用するデジタルヘルスソリューション(DHS)製品として、オンサイトアラーム分析ソフトウェア、入退院業務支援ソフトウェアを日本で発売しました。医療課題の一つである無駄鳴りアラームの削減に向け、病棟全体のアラーム傾向や患者さん毎のアラームをリアルタイムに取得・表示できます。高度なアラームマネジメントを総合的に支援し、医療従事者の業務負荷軽減、医療安全、医療の質向上への貢献を期待しています。また、患者さんの入院から退院までの業務を支援するため、病床管理に必要な情報をリアルタイムで取得・集約・可視化し、在院日数の短縮や病床稼働率の向上への貢献を目指します。

ソリューション事業



オンサイトアラーム分析ソフトウェア QP-841N
(患者個人画面)



入退院業務支援ソフトウェア QP-842N
(患者プログレス画面)

Topics 2

ドウウェル社 連結子会社化

本年2月、周術期や検査室向けの業務支援システムを開発・販売するドウウェル社を連結子会社化しました。日本光電は、2030年に向けた価値共創の羅針盤で「新たな価値創造～医療現場のデータから価値を生み出す～」ことを掲げ、情報から価値を生むためのデータ統合プラットフォームの構築とアルゴリズム開発に取り組んでいます。ドウウェル社は、1996年の設立以来、先進的なITシステムを運用する日本の手術室をサポートし、高い評価を得ています。当社のソリューション事業(ITS+DHS)と高い親和性があり、両社の強みを融合することで、医療現場における新たな価値創造につながることから、合意に至りました。今後、次世代の周術期ソリューションを創出し、持続的な企業価値の向上および医療課題と社会課題の解決を目指します。

所在地	北海道札幌市	業務内容	医療情報システム製品の開発・販売
代表取締役	進藤 義宏	設立	1996年5月

Topics 3

鶴ヶ島生産センタ 稼働

本年3月、センサ類など消耗品の生産および自動化生産技術の研究開発拠点である鶴ヶ島生産センタ(埼玉県鶴ヶ島市)が稼働を開始しました。当社の安定収益基盤である消耗品・サービス事業の強化に向け、消耗品生産のマザー工場として、自動化生産技術の研究開発を加速、生産効率の向上や生産規模の拡大、グローバルでの需要拡大に対応します。



鶴ヶ島生産センタ外観